

コケセンボンギクモドキと思われる植物について

明治大学法学部教授 夏井高人

コケセンボンギクモドキなる植物がある。沖縄北部の山地などには多数の個体がみられるとのことだ、しかし、その生態については詳細が不明であり、その学名もまだ確定されていないらしい。

過日、沖縄の業者からリュウキュウコスミレの苗を購入して育てていたところ、2010年4月ころ、正体不明の小型の植物の芽が2つ出てきた。そこで、その芽の一方をリュウキュウコスミレの鉢から分離して別の鉢（プラスチック鉢）に植えて育ててみた。

一方の鉢（A）は、日向の場所に置き、他方の鉢（B）は遮光率50パーセント程度のやや涼しい場所に置いて育てた。いずれも根生葉には鋸歯がなく、葉柄状に細く伸びた先が円形となっている。葉全体に非常に微細な毛がある。また、根生葉は付したような状態で生え、全体としてロゼット状になる。

その後、2010年6月下旬になってAの鉢のものから高さ5センチ程度の細長い花茎が立ち、直系2ミリ程度の小さな花が咲いた。花の特徴はヒメムカシヨモギ（*Erigeron canadensis*）の花とよく似ており、非常に短い舌状花と筒条花とから構成されていて、明らかにキク科植物であることがわかる。ただし、ヒメムカシヨモギとは異なり、全体に非常に小型であるというだけではなく、花は花茎の頂点に1個～2個しかつかない。その後、この花は結実することなく植物体全体が枯死した。高温・乾燥の場所では生育しない、または、生育しにくいことがわかる。

他方、Bの鉢のものはロゼット状の根生葉だけの状態で変化がなく、開花しなかった。2010年8月末現在、依然としてロゼット状の根生葉だけの状態を維持している。

以上のことから、この植物は、比較的暗い湿った場所で生育するが、温度が一定程度以上になるか、または、日照量が一定以上になると花茎をたて開花するに至るものと推定される。

さて、この植物の同定を試み、類似する植物の写真等を比較検討してみたところ、コケセンボンギクとして認識されている植物であると同定可能なことが判明した。同定に際しては、葉及び花の形状等を重視した。また、沖縄産の野草の苗にその種子が付着してきたものと推定されるところ、その苗を購入した山野草店の所在地が沖縄本島北部であることから、現在明らかになっているコケセンボンギクの分布域とも一致する。

問題は、コケセンボンギクモドキの学名である。

コケセンボクギクモドキは、コケセンボンギク（*Lagenophora lanata* A. Cunningham）と同様に小型の植物であり、その外見が似ていることから付けられた名であるとされている。そして、仮に付された学名としては、コケセンボンギクの近縁種であるとして、*Lagenophora* sp.をもってあてるのが有力な見解らしい。

しかし、仔細に検討してみると、コケセンボンギクモドキは、コケセンボンギクとは相当

異なる植物であり、むしろキク科ムカシヨモギ属 (*Erigeron*) の植物としての特徴を強く有している。

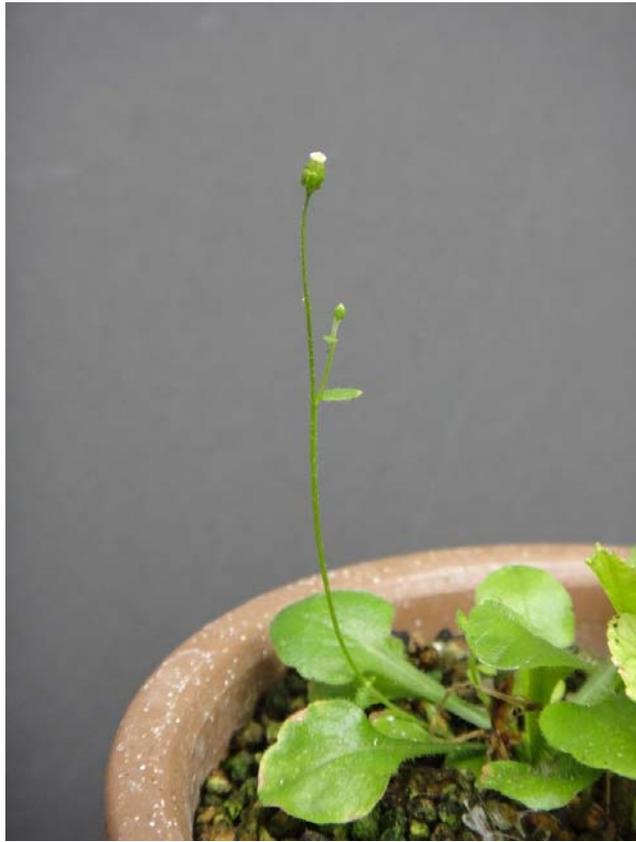
そこで、帰化植物であることを疑い、沖縄と近い環境にあると推定されるハワイの植物をつぶさに比較検討してみたところ、ムカシヨモギ属に属する植物の一種である *Erigeron bellioides* A.P. de Candolle (Syn. *Erigeron rivularis* Sprengel ex A.P. de Candolle; *Erigeron runcinatus* Bertero ex A.P. de Candolle; *Erigeron semiovalis* Urbatsch) と同一の植物であると判断するに至った。

Erigeron bellioides は、キク科ムカシヨモギ属に属する植物で、バハマ、キューバ、ドミニカ、ハイチ、プエルトリコを原産地とし、米国のハワイ州に帰化して繁茂しているとのことだ。プエルトリコを除くと、米国においても帰化植物であることになる。赤道直下の環境に適応した植物ではあるけれども、上記の生育実験の結果からすると、湿潤で日陰になっている場所に生育する植物であると思われる。

さて、*Erigeron bellioides* は、本来なら日本に自生しない植物であるので、帰化植物であることになる。そして、その渡来の経路が問題となる。特に明確な根拠があるわけではないが、私は、米軍基地がこのような植物が帰化植物として渡来する非常に重要な経路の一つとなっているのではないかと推定している。米軍基地では日本国の国家主権が制限されており、日本の港湾や空港におけるのと同様の意味での厳格な検疫も実施されていない。そのため、沖縄に限らず、日本国内の米軍基地周辺では多数の帰化植物が渡来している可能性がある。

以上のように、コケセンボンギクモドキは、コケセンボンギクの近縁種ではない。コケセンボンギクは、沖縄においては危急種として扱われているが、コケセンボンギクモドキを同等に扱う必要はないと思われる。また、もし今後コケセンボンギクの自生地を圧迫する可能性がある場合には、むしろ逆に特定外来生物として指定する必要があるかもしれない。

なお、最近、*Erigeron bellioides* が台湾でも発見されたとのことだ。今後、太平洋及びそれに面するかなり広い範囲にわたって帰化が進行するのではないかと予測されるし、実際には既に帰化しているかもしれない。



Erigeron bellioides

[参考文献]

Erigeron bellioides DC.

<http://www.ars-grin.gov/cgi-bin/npgs/html/taxon.pl?447240>

Erigeron bellioides DC.

<http://www.tropicos.org/Name/2705536>

Plants of Hawaii: *Erigeron bellioides*

<http://www.hear.org/starr/images/species/?q=erigeron+belioides&o=plants>

Three Newly Naturalized *Asteraceae* Plants in Taiwan

<http://tai2.ntu.edu.tw/taiwania/pdf/tai.2009.54.1.76.pdf>

コケセンボンギクモドキ

<http://koma2.fc2web.com/kokesenbongiku.html>

コケセンボンギク (危急種)

http://www.pref.okinawa.jp/okinawa_kankyo/shizen_hogo/rdb/sp_data/a-00263.html